

# 学校長通信 No.26

## これから必要な力（平成 27 年度 卒業式式辞）

---

桜の芽吹きに新たな春の訪れを感じる今日の佳き日、大阪府立日根野高等学校第 27 回卒業証書授与式を挙行するにあたりまして大阪府議会議員 松浪武久様、泉佐野市教育委員会学校教育課指導主事 鮫島 賢様、地元中学校の校長先生方ならびに多くのご来賓のご臨席を賜りました上、多数の保護者の皆さまのご列席を得ましたことは、卒業生はもとより本校教職員一同にとりましても心からの慶びであります。高いところからではございますが、心より厚く御礼申し上げます。

ご列席の保護者の皆さま、三年間の学業を修め卒業証書を授与された 235 名の卒業生の皆さん、改めまして卒業おめでとうございます。そして、私も皆さんからたくさんの方の力と元気をいただきました。本当にありがとうございました。皆さんは今、過ぎてしまえば長いようで短かった三年間の思い出とともに、輝かしい未来に向け夢と希望に胸ふくらませ、この場に臨んでいることと思います。そんな皆さんに校長として最後のメッセージをお贈りしたいと思います。

この一年、皆さんは高校生活の集大成として、受験という試練に取り組んできました。とても頑張ってきたと思います。ただ、これから皆さんは新しい学びの場あるいは職場に入って、今までとは違う課題に取り組むこととなります。高校時代までは正解を見つけ出し、○をもらうために、いろいろと勉強してきましたが、これからはそうした正解を見つける力というよりも、正解として蓄積してきた知識や情報を組み合わせたり活用する力、あるいはそれを説明したり発信する力が求められるようになります。つまり、正解がひとつではない課題に取り組む、それについてのあなたの意見や考えが問われるようになってくる、ということです。ひとつの正解を見つけて処理するという作業はコンピュータとロボットがやってくれますから、私たち人間にはコンピュータにできないこと。つまり対人的なコミュニケーション能力であったり、プログラムの指示がなくても、自分で判断して動ける力であったり、要するに正解がひとつではない課題への対応力が求められることとなります。

話は少し変わりますが、私には皆さんにきちんとお話しておかなければならないことがあります。修学旅行の時の話です。本当はマレーシアに行く予定でした。皆さんも先生方も 1 年以上もかけて準備をしてきていました。あの時いろんなことが起こって、それを今日ここで繰り返すことはしませんが、いよ

いよあと一カ月で旅行だという時になって私の判断で断念しました。随分ひどいことをして、皆さんやお家の方、先生方は勿論、旅行関係者全員に大変なご迷惑をおかけしてしまいました。しかし私は校長として中止を決断しました。それが正しかったかどうか今でも分かりません。仕方なかったと言っていたことはありましたが、それはあくまで仕方なかったであって正しかったということではありません。勿論、校長の判断は間違いだった、行くべきだったとお叱りを受けたこともあります。若い皆さんが海外を経験するということは、私たち大人よりずっとずっと大きな意味があるからです。違う価値観や文化に触れるということは、それがたった一日のことであっても、ひとの人生を変えることがあります。だから、なんとかみんなといっしょにマレーシアに行きたかった。言い訳になりますが、今でもそういう気持ちです。とても複雑です。

どうしてこんな話をしているか、皆さんは分かってくれるでしょうか。勿論、あの時のことをきちんと話さなければ・・・という気持ちが一番なのですが、もうひとつ、先ほどからお話しています「正解がひとつではない課題」とはどういうものか、それを具体的に理解してほしいとお話しています。正解のない問題に対し全員が納得できる答えを出すことは難しいことです。考える立場によって答えが変わるからです。大変なことですが、これから皆さんもこういう課題に取り組んでいくことになります。平たく言うと、それが大人になっていく、という意味だと思います。難しい課題ですが、3年間日根野高校で仲間や先生といっしょに学んできた皆さんなら、あの修学旅行の直前変更を体験した皆さんなら、きっと正面から乗り越えていってくれる。私はそう思っています。

最後になりますが、皆さんには3年間を共に学んできた友という大きな財産があります。人生に迷う時に振り返ることのできる日根野高校という心強いベースキャンプがあります。未来を創造する若さがあります。その自覚と誇りを持って、それぞれの輝かしい未来に向かって益々精進されることを心から祈念いたしまして、式辞といたします。

平成 28 年 2 月 26 日

大阪府立日根野高等学校長 岸野圭吾